

平成 27 年度 第 5 回 八戸市協働のまちづくり推進委員会 議事録

【「元気な八戸づくり」市民提案制度・市設定テーマ部門 企画提案事業ヒアリング審査会】

【日 時】平成 27 年 10 月 5 日（月）18 時 30 分から 20 時 20 分

【場 所】市庁別館 2 階 会議室 C

【出席委員】北向秀幸委員長、佐藤博幸副委員長、江刺家一弘委員、五戸保夫委員、
齊藤綾美委員、田頭順子委員

※ 欠席：浮木隆委員

【提案者】（仮称）はちのへ観光ネットワーク 代表 菊地有紀氏
副代表 慶長洋子氏
会員 高橋薫氏

【担当課】観光課 中村邦英主幹（誘客宣伝 G L）、三浦一範主査

【事務局】市民連携推進課 4 名

次第 1. 開 会

（司会：市民協働グループリーダー）

次第 2. 委員長あいさつ（北向委員長）

皆さん、こんばんは。

今日は「元気な八戸づくり」市民提案制度・市設定テーマ部門に応募がありました 1 件の提案の審査になっております。1 件ですが、委員の皆様から事前質問がけっこう出ておりますので、意見交換をしていただく時間も必要かなと考えております。皆さんの活発なご意見をお願いしたいと思います。

次第 3. 審査手順等について

【ヒアリング審査の流れ及び運用方針、提案事業の概要、本採点の実施方法について】
資料に基づき事務局から説明

■委員長

ただいまの事務局の説明について、ご質問はございませんでしょうか。

本日の委員会では 1 件の企画提案の審査を行いまして、協働事業候補として選定について結論を出すこととなります。ヒアリングをしたあと、皆さんと意見交換を行いまして、いただいたご意見を付帯意見としてつけることとなります。

プラットフォームと表現しておりますが、協働事業候補としての選定はいたしますけれども、付帯意見を付けて今後の事業化にあたってのアドバイスを行うという場となります。

ご質問がないようであれば、ヒアリング審査に入りたいと思います。

それでは、事務局は、提案者と担当課を入室させてください。

次第4. ヒアリング審査

((仮称) はちのへ観光ネットワーク・観光課入室)

■委員長

ただいまから、『「元気な八戸づくり」市民提案制度・市設定テーマ部門の企画提案事業ヒアリング審査』を実施いたします。

はじめに、事務局より、本日の出席者の紹介をお願いします。

【出席者紹介】

事務局より、協働のまちづくり推進委員会の各委員、提案者((仮称) はちのへ観光ネットワーク)及び担当課観光課職員)を紹介。

【提案者による事業概要説明】

■委員長

それでは、早速、提案者である「(仮称) はちのへ観光ネットワーク」より、提案事業の概要について、ご説明をお願いいたします。

■(仮称) はちのへ観光ネットワーク

八戸市内に出回っているガイドブックはきれいな写真をたくさん掲載し、観光施設や観光地といった「場所」の紹介はされておりますが、ボランティアガイドや地元の観光に携わっている「人物」に焦点を当てたものはなく、人の姿や顔が見えないのが気になっていました。

そこで、観光地で活動している「人物」の紹介を中心にしたガイドブックを作成することで観光客に安心感を与え足を運んでもらえるようにしたいです。また、実際足を運んでもらってそこにいる地元民との会話によって「また来たい」と思ってリピーターになってほしいと考えています。

そのためにまずは、すでに観光に携わっている方々の活動を「おもてなし活動」と位置づけて団体・個人を問わず、アーカイブ化、リスト化をし、観光関係者で共有できるようネットワークづくりをし、お互いを紹介しあえるような関係づくりをしたいです。

こちらで用意したリスト化するための様式に記入し、画像とともに提供してもらいアーカイブ化していきます。アーカイブ化した後は紙媒体やホームページで観光客にも紹介していきたいです。

今後の流れとしては11月下旬に賛同してくれた方々で顔合わせをして、各活動の体験会などをおして絆を深められればと考えています。すでに声かけはしており、賛同を得たところからリスト化を進めています。必要経費は提出した予算書のとおりです。

すでに10団体程度に声かけをしています。そこから他の団体やあまり知られていない観光地の紹介があり、増えております。

最終的には観光客が最初に会う人がリスト化された情報を持って紹介できないと意味がないので、ホテル協議会、ホテル旅館業組合、八戸ポータルミュージアムはっち、八戸駅2階の観光プラザ、公共交通アテンド「はちこ」に配布して周知を図りたいです。

【質疑応答】

■委員長

ご説明ありがとうございました。

続いて、質疑応答に入りたいと思います。

■委員

サポーターを増やしていくということですが、サポーターとは団体に所属させるのでしょうか。登録してもらうということになるのでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

すでに観光地で活動している人・団体は「会員」として取り込もうと考えています。「サポーター」は例えば「清掃活動します」というのも「おもてなし活動」と考えているので、例えば町内会など普段観光地で活動している人以外をさしております。

■委員

紹介するというので、団体に入会して会費も支払うということではないということでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

そういうことです。

■委員

予算書に体験研修バス代というのがあるが、具体的には何をするのでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

会員として想定している団体を読み上げます。すでに声がけしたところとして、山の楽校運営協議会会長、校長、櫛引八幡宮の権禰宜、鮫観光協会の会長、史跡根城ボランティアガイドの代表、是川縄文館ボランティアガイドの担当、市民ガイドの代表、種差ボランティアガイドの代表、八戸酒造の酒蔵見学担当、これから声がけする予定が種差観光協会、種差インフォメーションセンタースタッフとしてNPO 法人 ACTY。これからの団体の活動をお互いが体験することで、紹介しやすくなるようにします。だいたい3日間で全て回りきれるという想定で予算は見積もりました。

■委員

お話の中で案内スタッフの人を紹介する必要があるとのことですが、そこに至った想いを教えてください。具体的な体験などもあればそこも含めてです。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

以前、観光コンベンション協会で働いていたのですが、観光パンフレットがきれいな写真がたくさんあるのはいいですが、どこか温かみが足りない、伝わってこないと感じておりました。体験プログラムなど紹介してくれる人はたくさんいるのに、もったいないと思っていました。

■委員

他都市の事例を添付していますが、こういう事例に触発されたということでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

観光協会でも働いていたときから、人を紹介できないかとモヤモヤしていました。もっと人を紹介できれば八戸を回遊してもらえるのではないのでしょうか。

■委員

会員は一個人というより、団体で登録し関わるということによいですか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

すでに活動しているという点で、一個人よりは団体の方がよいと思っています。

■委員

構成メンバーとサポーターがいるということですね。コアで動くのは構成メンバーで、

構成メンバー間では相互の意思疎通を図るためにバスツアーやミーティングを予定しているようですが、構成メンバーとサポーターとのコミュニケーションをとることはあまり必要がないかもしれないですが、何か工夫していることはありますか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

はじめは、今まで観光に関わっていない市民からも何かしらのおもてなし活動を公募し、受け皿としては窓口を観光課にお願いしようと思っていました。

清掃や手振りで申し込んでくれた方には缶バッチか何かを渡そうと考えましたが、調整中というか、できたらよいですが日数的に厳しいかもしれません。

■委員

バスでの研修はサポーターと会うのではなく、各団体の活動場所を巡るということでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

サポーターがどれだけ集まるかにもよります。

■委員長

予算書にあるバスでの研修はネットワーク作りのためにコミュニケーションを図る最初のステップということでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

ガイド同士で行っているところもあり、例えば種差のボランティアガイドが是川のボランティアガイドを体験するというは過去に行っています。ただそれ以外にガイド同士で横のつながりは見えず、体験会をしたことがないようだったのでお互いの理解を深める上で必要です。

■委員長

もしかしたら情報としては知っているけれども、体験はしていないから補うということですね。

■委員

このバスツアーに関して、コミュニケーションを図るという目的であれば、他のやり方ができないものでしょうか。1回見るだけであれば、この分の予算を他に回してもよいのではないかと感じました。

紹介するということについて、ネットワークがあることを知っている人はいいですが、例えばA観光地に行って、その先はどう誘導するのでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

訪れた観光客のニーズに合わせて行き先を紹介します。

■委員

A地点からB地点を紹介して、という形で紹介しあうということですね。

市民から観光地を公募するというのですが、どういう形で公募を行うのですか。チラシを配布するのか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

おもてなしサポーターを公募するときに「おすすめの観光スポット」という項目を設けて観光地も募集します。同時進行で会員にも新たなおすすめ観光地の情報提供を呼びかけます。

■委員

例えば「まちかどにこういうところがある。」くらいの内容でよいということですね。

おもてなしサポーターのグッズ予算化というのは缶バッチの分でよいでしょうか。これは無料で配布するのですか。「わたしたちはサポーターです。」とわかるものということ

すね。

■委員

活動内容はネットワークを組んだ団体にお任せなのか、こちらの意図に合わせたものにしてもらうのか、具体的な活動内容がまだよく見えないのですが。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

各団体がこれまで活動してきた内容を紹介するという趣旨なので、今やっている以上に何かをお願いするつもりはないです。それぞれの活動を長く続けていってほしいし、体験会を通してお互いを知ることによっていろいろな気付きが生まれ、刺激になることがあるので、つながる仕組みをつくり、集約し、ホテルに配布するなど観光客に PR する体制を整えて、ガイドと観光客をつなげていきたいです。

■委員

個々の観光客とコミュニケーションをとって広がりにつながっていけばよいのですが。今年の夏に体験したことですが、種差のいろいろなパンフレットがあって、画家や詩人など有名人と種差の関わりが紹介されており、ガイドの話を聞きながら見て歩くことによって、断片的な知識がつながり、種差のよさを再発見できました。ガイドの役割はすごく重要だと感じました。ということで、つながっていくことが大切ですが、もっとこちらから仕掛けてもいいのではないのでしょうか。八戸には例えば B-1 グランプリの第一目を開催しているという実績がありますが、大変な苦勞をされていることをご存知だと思います。いろいろな仕掛けをして人とのつながりを作って続けてきています。それが今では全国的なイベントになっており、そういう風にどこかが中心になって仕掛けるのも大事ではないのでしょうか。そういう役目を担ってほしいという期待も込めての話です。

■委員長

他地域事例で仙台と京都を添付していますが、私は「長崎さるく」を実際体験しております。最初の企画書が人にフォーカスを当てて紹介していこうという内容で、仙台と京都の事例をホームページで見たので、てっきり観光客のニーズに応じて選べるようにリスト化したものを提供するというかと思っておりました。しかし、実は「人」の話であり、おもしろい企画内容だと感じております。現実的に八戸で「人」にフォーカスをあてたときに、どれだけさまざまなニーズに対応できる企画として出していけるのか。観光課で実際さまざまなニーズがあがってきたときに、今は個別の多様化したニーズになってきているはずなので、現実的にどういうルートで探してどう情報までたどり着くのかという印象をもっているのかお聞きしたいです。

■観光課

八戸の強み、魅力は観光素材に限った話ではなく、朝市であれば「イサバのカッチャ」との交流や、先ほど出た B-1 グランプリの場合、せんべい汁という素材自体がおもしろいということもありますが、粘り強いユニークな取組があって「人」も八戸の強みだと思っております。先ほど「観光パンフレットは人の顔が見えない」と言われてしまいましたが、今回の提案は、「人」を紹介したいということで、我々が手の届かないところを取り組むご提案だと思っております。すでに行っている活動を紹介するというのは無理がないと感じております。

青函 DC の後もおもてなしの火が消えないようずっと細く長く活動を続けていただけるのが理想の提案ということで募集していたので、今回の提案は青函 DC 終了後も、発展的に続けていただけるのではないかと期待しております。

■委員長

八戸市の現状として、観光客は最初にどこに行くのですか。観光コンベンション協会、駅を降りて「はちこ」なのか、ニーズに対して受け手側はどう対応しているのですか。

■観光課

直接観光課に具体的な問い合わせが来た場合はご紹介しております。なんとなく来たということであれば、はっちをお勧めしています。はっちは浅く広く八戸をお知らせして、その先が知りたければ現場に行ってみてくださいというのがコンセプトで、観光客が足を運びたくなるような、興味を持ってもらえるような工夫した展示をしています。

■委員長

建築の仕事をしている関係で、私の恩師と一緒にはっちを見たときに、この先をどうつなげていく施設になっているのかと最初に問われました。その部分が必要ということで今回の提案が出たのではと感じております。その辺を提案者はどう思っておりますか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

例えば弘前は「お城と桜」、青森は「ねぶた」という感じで「これ」というイメージがあります。しかし八戸はよくも悪くも観光地が点在して、ジャンルも多様で2回3回来ても楽しめるまちだと思っています。そうなるのははっちのインフォメーションやはちこさんの案内が重要になります。観光客に最初に会うであろう人たちが情報を持っていてガイドに直接連絡をとって、確実につながれることが理想です。

■委員長

「長崎さるく」も人をつなげる役割を果たす場だと思っています。八戸はどうしていくのかイメージはだいたいわかりました。

■委員

まずは横断的な組織を作るのが先決でしょう。市民からボランティアガイドを募集するというのは先の先の話ではないでしょうか。その団体の中で具体化して進めていくのではないのでしょうか。種差のボランティアガイドからお話を聞く機会がありましたが、種差は基本的には夏で、メンバーが高齢化していく中で手が足りない状態でなんとか回しております。各団体がさまざまな問題を抱えながら運営しているので、まずは横の組織作りに集中するのがよいと思います。

■委員長

将来的な話もしてしまいましたが、観光客へ周知するための媒体予算化とありますが、媒体は何を想定していますか。

■観光課

紙の媒体になると思います。このネットワークを構成する団体同士が共有できるための紙ベースの情報と、観光客に最初に会うホテルや観光案内所の人たちが持って共有している各団体の活動紹介や有償無償なども含まれている情報があればよいという話はしております。そうすれば紹介するときの手助けになりますから。

■委員長

観光客向けではないということですね。

■観光課

予算と部数次第になってきます。二種類作るのは大変なので、ネットワークの会員同士で共有している内容を一部利用するなどできればよいです。

■委員長

個人だと「キャンセル待ち」と言いにくくて無理して受けてしまったりします。そういう意味では、組織ができて窓口ができると個人を守れるのではないかという期待をしています。他お二人から何かないですか。

■ (仮称) はちのへ観光ネットワーク (慶長氏)

すでに活動している団体がつながることで、観光客の多様なニーズに合わせて動いていけるかということが大切なので、DC が来る前に団体間でシステムが動くようにネットワーク作りに力を入れたいです。

■ (仮称) はちのへ観光ネットワーク (高橋氏)

顔が見える関係というのが大事だと思っております。観光地を回る時に、自分で調べて計画を立てて歩いてみるけれど、そこで出会ったタクシーの運転手や宿のおかみさんからの情報で計画を変えるということはよくあり、人に会いに行くという感覚があります。

私ははちのへガイドをしています。観光客はもちろん、地元の方にも是川や種差にはこういうガイドがいて、「実は…」という面白い話が聞けて…、外国人にもそれなりに対応ができる…と、おもてなしの要素は限りなくあるので、八戸の魅力を伝えていければよいです。

■ 委員

観光課に確認ですが、青函 DC は期限があるのでしょうか。

■ 観光課

来年の7月から9月の3ヶ月間が青函 DC の期間です。その時期に、全国の JR 北海道から JR 九州までの各所が軸になり青森県と北海道道南を集中的に宣伝してお客さんを送り込む国内最大規模のキャンペーンです。

■ 委員

時期的なことからすると北海道新幹線開業のほうが脚光を浴びることになりますよね。

■ 観光課

それはあるでしょう。まさに今金沢で DC をやっています。DC をやるきっかけはいくつかありますが、その中の一つは新幹線開業というのがあります。

■ 委員

そうすると、提案者はこの DC はうまく乗るとして、ずっとやっていくということですよ。後は役所の予算を当てにせず運営していかないといけないということで、息の長い活動をするにあたっての心配をしております。

■ (仮称) はちのへ観光ネットワーク

細く長く続けていくために、連絡はメール、ホームページは無料のサイトを利用するというように、お金がかからずお互い負担のない形で続けられるよう工夫します。

あとは DC 終了後も定期的に会って横のつながりは維持していきたいです。

■ 委員

ホームページを立ち上げるということではいいですか。八戸市の観光ページに載せるのでしょうか。

■ (仮称) はちのへ観光ネットワーク

八戸市のホームページにバナーか何かの形でリンクを張りたいです。

■ 観光課

リンクに関しては、広告して営業するサイトではないため問題ないです。

■ 委員

今後、会員を増やして、そのホームページを管理していくということではいいですか。

■ (仮称) はちのへ観光ネットワーク

団体の代表者変更などにも情報更新にはすぐ対応できるようにしていきたいです。

■ 委員

どこかとりまとめるということではなく、あくまで連絡するのは直接その団体というこ

とでよいですか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

その方が迅速かつスムーズだと思っています。

■委員長

未確定要素が多い状態での採点になりますが、他、よろしいでしょうか。

■委員

「リピーター」という文言が目立つが、八戸に「リピーター」は来るでしょうか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

八戸は「これ」というものがないわけではないか、ただ観光地を訪れるというより、「あのガイドさんに会いたい」「あのおかみさんに会いたい」という人を増やしたいです。

■委員

具体的に思い当たるガイドはいますか。

■（仮称）はちのへ観光ネットワーク

山の楽校は温かい雰囲気がよくて、近隣の盛岡や青森からのリピーターがいます。

■観光課

陸奥湊の駅前に観光案内所がありますが、関西から1年に1度訪れるお客さんがいて、観光案内所の人たちに必ずあいさつに来ます。お客さんが「こういうのが見たい」と言うと「じゃあ連れて行ってあげるよ」と。また、まちなかだとふらっと訪れた横丁が気に入って来るようになったお客さんもおります。

■委員

陸奥湊の話は私もしようと思っていました。昨日「イサバのカッチャコンテスト」が行われていましたが、「観光案内所の1杯100円のコーヒーが好きで青森から飲みに来た。」というお客さんがいて、その人は観光案内所のガイドさんと意気投合して、その人に会いに来ています。だんだんつながりが増えて、昨日は青森から友人6人を引き連れて来ていました。

そこでせんべい汁をご馳走になりましたが、他のお店で食べるよりおいしいということで、人と食べ物とのつながりは大きいと感じています。浜の人特有のぶっきらぼうなところがあるが、それも魅力です。

人との出会いは何がきっかけになるかわからないため、このネットワークでそういうところを紹介して、つながりを作ればよいと思います。

■委員長

皆さまそれぞれ体験されているようで。私は先日所属している団体の全国大会を終えたところですが、帯広よりホテルの数が少なく、条件が厳しかったのですが、最後は「人」しかないということで企画して過去最大の人数が集まったというのがあります。

他にもみなさまお話ししたい体験はあるでしょうが、時間も迫ってきたので、他に確認したいことや質問事項がなければ、これでヒアリング審査は終わらせていただきたいと思います。なお、審査の結果は、後日、事務局よりお知らせいたします。

それでは提案者と担当課の皆さまは退室いただいて結構です。本日はお疲れさまでした。

((仮称) はちのへ観光ネットワーク、観光課退室)

次第5. 意見交換・審査結果の決定

■委員長

それでは、これより意見交換を行いたいと思います。

ただいまのヒアリングの結果を踏まえまして、このあと本採点をすることになります。

担当課からは「適格性あり」と判断されております。点数も7割以上超えております。

提案内容について何かご意見等はございますか。予算書が提出されておりますが、今後は議会に向けて予算化していくのでしょうか。

■事務局

この後予算化に向けて観光課と提案者で協議していくことになります。この予算書から増減することもあります。

■委員長

費用対効果の項目が採点し辛いかもしれません。

■委員

どこまで連携するのか、各団体の実績をもう少し吟味してもよいと思います。

■委員長

江刺家委員の先ほどの意見のように、高齢化などで手一杯でこれ以上受けられないと言う団体もあるかもしれないですね。ボランティアの人数を増やすことに苦慮されているでしょうね。この事例までできるのかというのはあります。

■委員

個人、団体どちらの観光客を対象にしているのでしょうか。

■事務局

突然来た方も事前予約も両方なりえると思います。

■委員

団体であればある程度コースが決まってくるかと思いますが。

■事務局

最近の傾向だと日本人は個人客が多く、団体となると外国人が多いので、将来的には外国人観光客への対応にも期待したいです。ボランティア団体を全て見るということは継続が難しいので、ネットワークを作ることによって個々の力を活用し、組織作りを構築したいという印象です。

■委員

顔が見えないと言っても、個々では顔がみえる活動をしているということがわかりましたが、一部だけを取り上げてネットワークとは言えないし、うまくいけば「また来たい」につながるが、うまくコーディネートできなければマイナスのイメージにつながり、難しいのではないのでしょうか。

■委員長

クオリティが維持されないと難しいですが、今回はまだその前の前の段階のネットワークづくりということだととらえています。

■委員

仙台は市が管理しているのでしょうか。満足できなかったときの苦情まで受付けているのでしょうか。

■委員長

ホームページ上でネットワークづくりをしているようで、個々への問合せとなっておりますね。八戸の場合、組織の立ち上げがメインだと思っております。

■委員

「おもてなし活動」「おもてなしサポーター」までいけるのでしょうか。

■委員長

次の人にきちんと紹介してあげたい。ただその紹介するためのつながりがないので、そこを作りたいということだと解釈しております。

■委員

それぞれの得意分野があると思うのですが。

■委員長

それを得意分野別にアーカイブ化するのではないのでしょうか。

■委員

まだ個々のガイドまで企画して予算化しているわけではないですよ。もしやるとなると、データの管理はどこでやるのでしょうか。

■事務局

提案者がします。

■委員長

そこまでできるのかというところですね。仙台は団体、京都は個人で出しております。

■委員

京都は片手間ではできないレベルですね。

■委員長

では本採点に入っていただいてもいいかなと思っていますが、皆さんいかがでしょうか。よろしければ、意見交換を一度ここで終了させていただいて、お手元の選考票のほうに本採点をしていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(事務局において、各位委員の採点を集計)

■委員長

それでは、委員会を再開いたします。

事務局より、採点の集計結果について発表をお願いします。

■事務局

それでは、獲得平均点を発表いたします。

公益性 9.3 点、実現性 8.0 点、費用対効果 7.0 点、協働性 8.3 点、独創性 8.5 点、合計 41.0 点となっております。

■委員長

協働事業候補は、獲得平均点が概ね 7 割以上の案件の中から、獲得平均点の最も高い案件を選考することとなっております。審査点数は 50 点満点ですので、7 割以上ということと 35 点以上ということになります。

獲得平均点が 35 点以上の（仮称）はちのへ観光ネットワークの提案について、協働事業候補として選定したいと思います。委員の皆さまいかがでしょうか。

(委員賛同)

■委員長

それでは、この提案について、今後事業化協議が始まることとなります。

このことを踏まえ、委員の皆さまよりアドバイス等があれば、決定通知書と一緒に付帯意見のような形でつけることができますが、ご意見はありますか。

■委員

今後どのように進んでいくのか状況をお知らせしてほしいです。

■委員長

今回は未確定な部分が多く、期待値で採点した部分が大きいかと思います。意見というよりは心配事でしたが、事務局で取りまとめて、私の方で確認した後に、提案者と担当課に送付することでご了承いただければと思いますがいかがでしょうか。

(委員賛同)

■委員長

それでは、これで審査は終了させていただきまして、進行を事務局にお返しします。

次第6. その他

今後のスケジュールについて

■事務局

○委員会開催予定日について通知

- ・10月22日(木)18時30分～ 第6回協働のまちづくり推進委員会開催
・協働のまちづくり施策の実績及び成果・課題について

○市民向け協働のまちづくりについて周知

○市民奨励金交付団体のイベントについて周知

次第7. 閉 会

(司会：市民協働グループリーダー)